

御 嶽 山

火山活動評価： 静穏な状況

29日以降、山頂付近を震源とする火山性地震が一時的に多発しましたが、火山活動には特段の変化はなく静穏に経過しています。

概況

・噴煙などの表面現象の状況(図1、図2)

三岳黒沢(王滝頂上の南東約14km)に設置した遠望カメラでは、王滝頂上付近及び地獄谷からの噴煙は観測されませんでした。

・地震や微動の発生状況(図3)

12月下旬から微小な火山性地震がやや増加し、29日以降一時的に多発しました。震源は山頂付近の浅い所と推定され、最大地震は30日15時33分に発生したマグニチュード¹⁾1.3でした。火山性微動は観測されませんでした。

山頂付近を震源とする地震活動は、1979年10月～1980年1月、1991年4～5月および1992年11月にも活発化しました。これらのうち、1979年には小規模な噴火が、1991年にはごく小規模な噴火が発生しており、火山性微動も観測されています。

1) マグニチュード(M)は地震の規模を示します。資料中のMは暫定値で、後日変更することがあります。

・地殻変動の状況(図4)

GPS連続観測では、火山活動による変化は認められませんでした。



図1 御嶽山 山頂部の状況(12月25日、三岳黒沢遠望カメラによる)

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000(行政界・海岸線)』『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)。

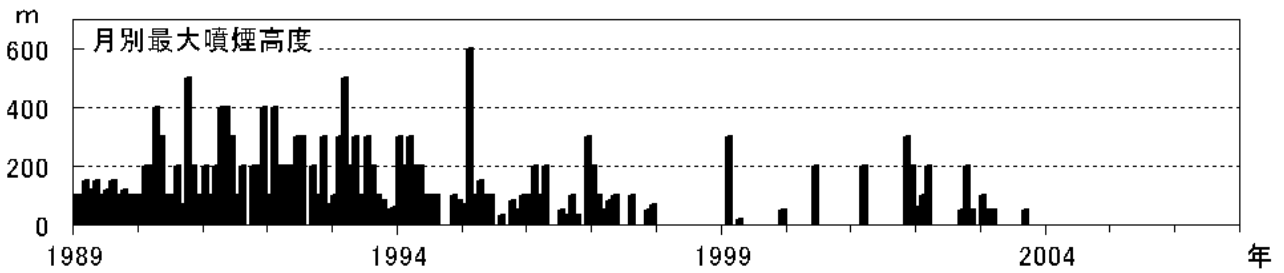


図2 御嶽山 定時観測（09時・15時）による月別最大噴煙高度（1989年1月～2006年12月）

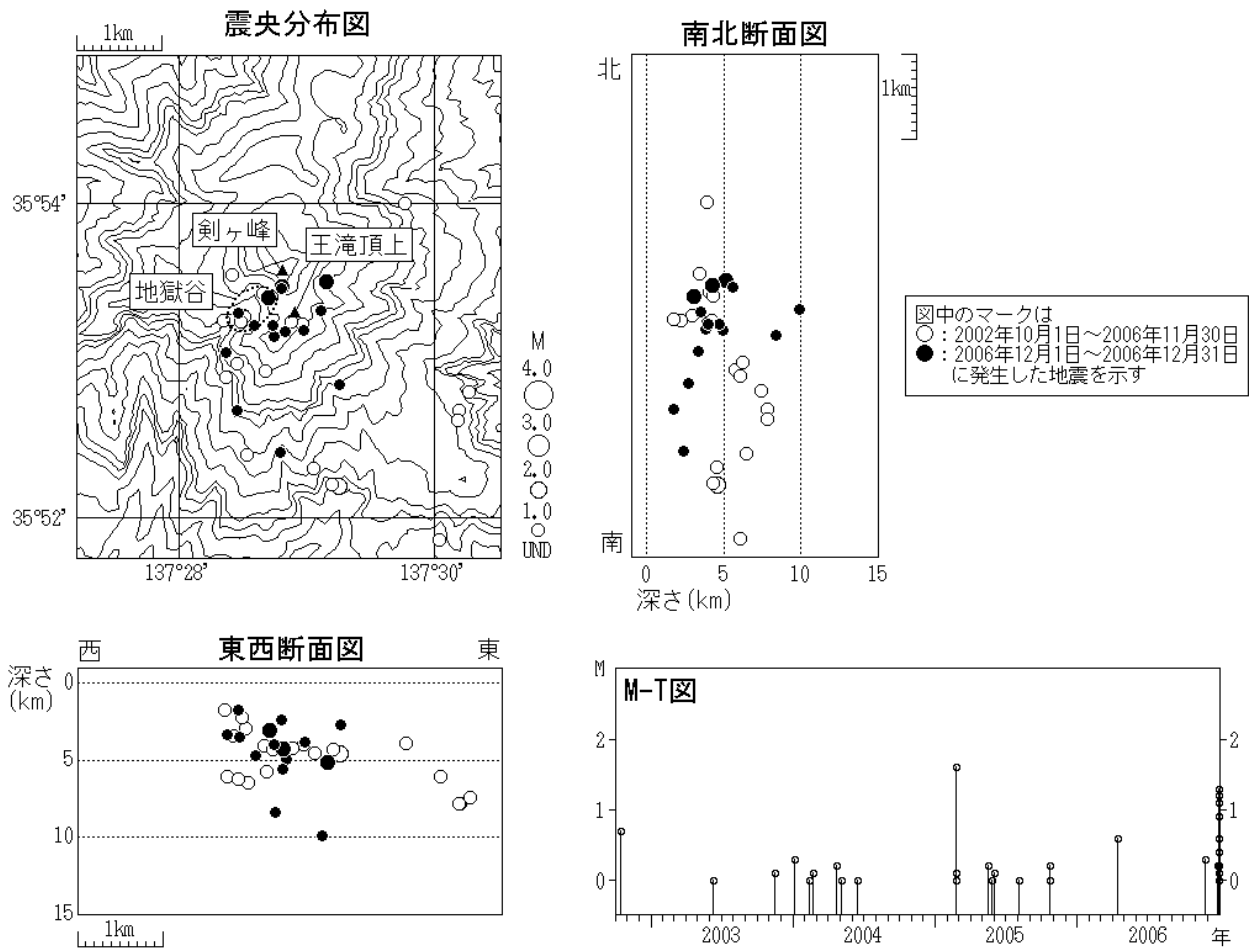


図3 御嶽山 山頂付近の地震活動（2002年10月1日～2006年12月31日）
 M（マグニチュード）は地震の規模を表します。資料中のMは暫定値で、後日変更することがあります。

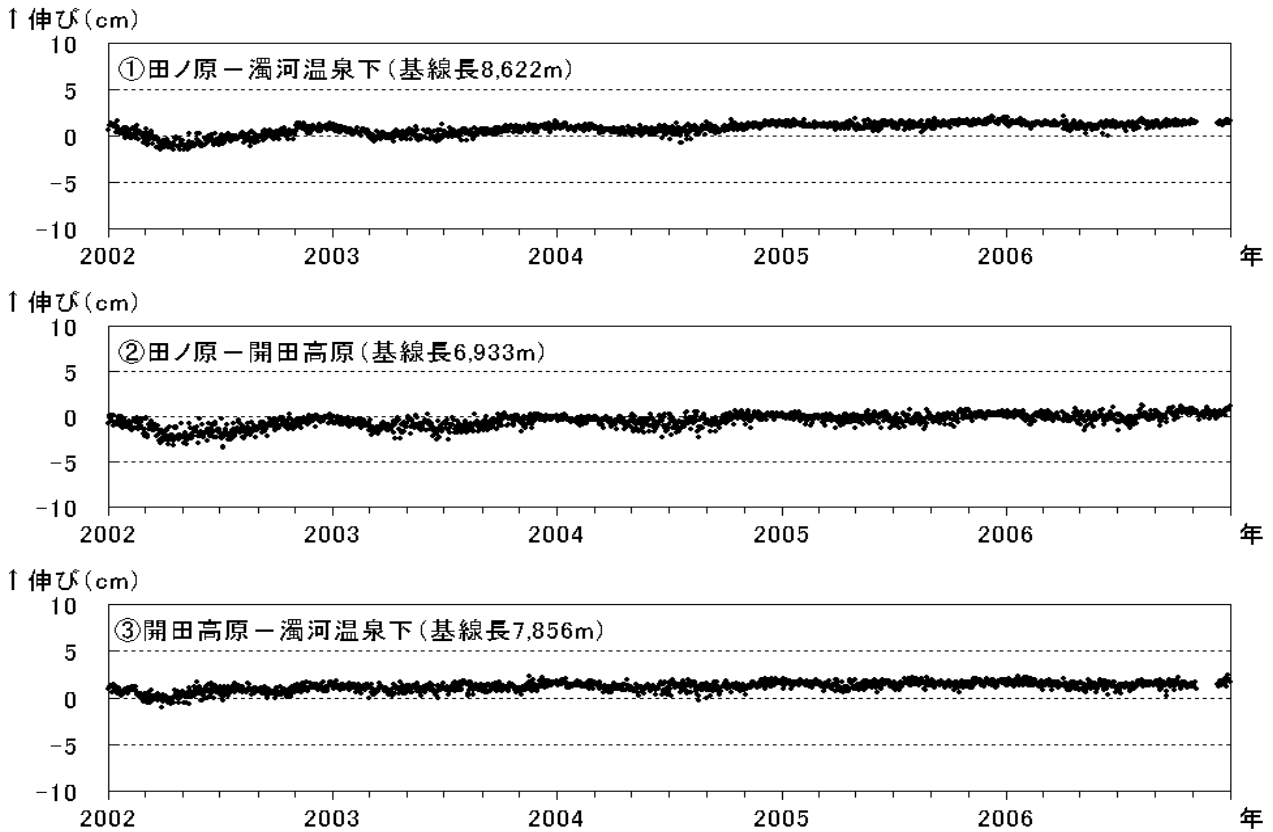


図4 御嶽山 GPS連続観測による基線長変化(2002年1月1日~2006年12月31日)
 基線長変化にみられる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動です。
 ~ は図5のGPS基線 ~ に対応しています。

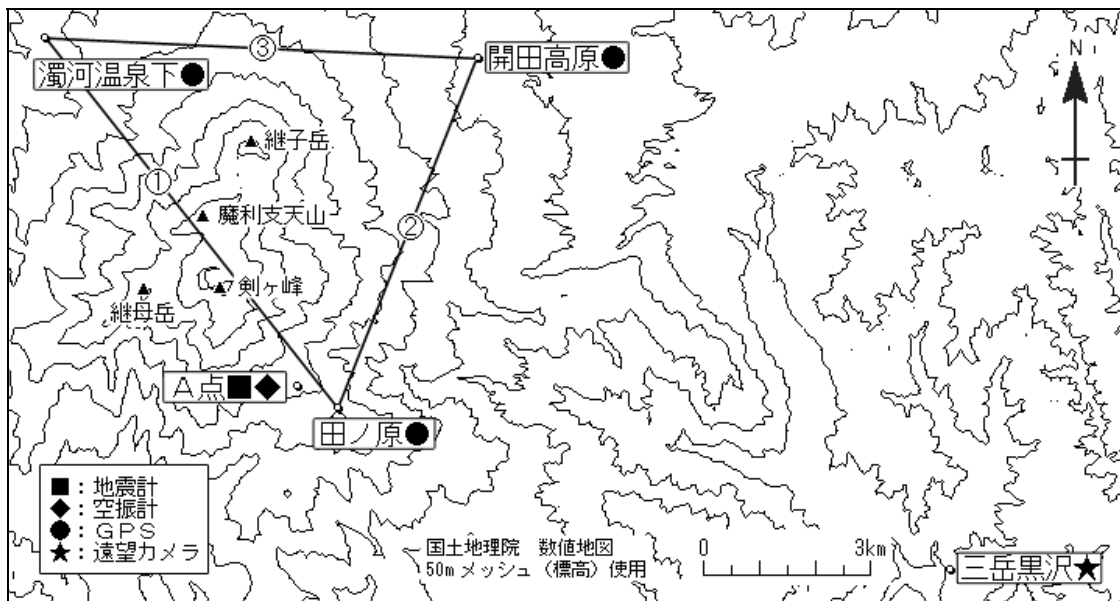


図5 御嶽山 気象庁の観測点配置図(小さな白丸は観測点位置を示しています)
 GPS基線 ~ は図4の ~ に対応しています。